

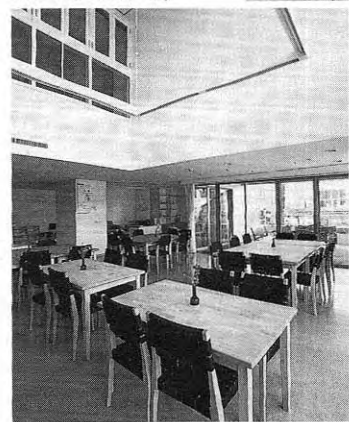
22

他の世代とふれあいながら 自由で気ままな 自立した共生を楽しむ

自主運営型コレクティブハウスで多世代と交流しつつ
自分の好きなことに時間を割くゆとりの日々。
東京都荒川区 井上靖彦さん(60歳)、文子さん(56歳)



(上) コモンミールは週3回あり、4班が週ごとに担当するシステム。ひとりが食事を作るのはだいたい月に1回程度。料理が苦手な人は自然とみなでサポート。
(下) 吹き抜けから燦々と日が注ぐコモンダイニング。吹き抜けは居住者の希望により設けられた。
(右) 作業スペースでは住人が持ち込んだ不要の家具をリメイクしている。



すずやトマトも育つ菜園スペースはかなりの広さ。ここから収穫するときは、各自お金を払うといった生活の上での細かい配慮も。

少し早めだが老人ホームに入ろう。井上さん夫妻は定年前からそう決めていた。社宅住まいだったので定年後は新居を探さなければならなかったこと、また体調面を考えると夫婦二人だけの生活には不安があったというのがその理由。でもこの年齢で老人ホームはまだ早いだろうか、と逡巡したとき偶然出会ったのが、多世代型集合住宅のコレクティブハウスだった。住居部分に加え、共有スペースも自由に使える。住人同士交流があり、自分たちでルールを設けながら運営していくスタイルも含め、まさに理想の環境だった。

「定年後、同年齢の人間とは知り合えるかもしれないけれど、ここでは普通ではなかなか知り合えない若い人と話ができる、それはありがたいよね。たとえマンションに入って近所づきあいしても表面的な話しかしないでしょ。それはやっぱり孤独だと思うよ」

自分が定年で仕事をしなくなるのだから妻も家事から解放すべき、という発展的な考えを持つ靖彦さんにとって、居住者が交代で全員分の夕食を作るコモンミールがあることも大きな利点だった。

「みなと交流できるし、自分のレ

夢実現まで10年

1年目 50歳 定年後にやろうと決めている習い事をはじめ

若い頃にやりたくても時間の都合などでできなかった習い事を定年後には始めることは決めていた。ただ、定年後にいきなりゼロからはじめてもついていくのが大変だと思い、慣れるために暇を見つけて腹話術の教室に通いはじめる。

3年目 52歳 長男が独立

定年後は夫婦2人で暮らしたいということをお子に告げて、独立を促す。

5年目 55歳 定年後は老人ホームに入ることを決意

体調面、健康面など様々な事を考慮し、2人きりの生活では不安だと早い段階から老人ホームに入ろうという意向を固める。

6年目 56歳

さまざまな老人ホームを視察

資料を集め、休みのときに夫婦2人で老人ホームを見学に行くが、今ひとつ決め手に欠けるのでなかなか見つからない。

7年目 57歳 コレクティブハウス かんかん森への入居を決める

日暮里コミュニティのライフハウスを視察に来て、同じ建物内にあるコレクティブハウスの存在を知り、その希望通りの環境に入居を即決。

10年目 60歳 会社を定年退職。晴れてコミュニティハウスの住人に

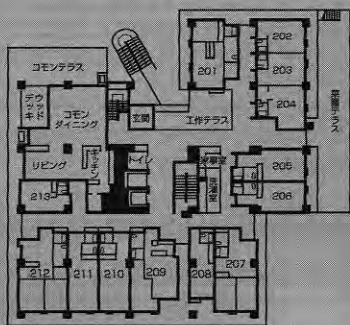
定年後、次男も独立したために、現在の住居に移転。

かかった費用

入居費 約100万円

もっともこだわった点

様々な世代と
コミュニケーションできる、という点



所在地/東京都荒川区
家族構成/夫、妻 個室面積/60㎡
構造/鉄筋コンクリート 家賃/17万4000円
1か月の生活費
夫婦同額にしています。余った分はそれぞれの名義で貯金。

日暮里コミュニティ



最上階にはライフハウス専用の大型展望風呂も完備

自主運営型一般住居のコレクティブハウスが入った「日暮里コミュニティ」は大型の複合型ハウス。他に、自立した高齢者の住まいである「ライフハウス」、介護が必要な高齢者の住まい「シニアハウス」が同建物内に併設されている。(株)コミュニティハウスプラザ ☎0120・001318

リビングでくつろぐ井上さん夫妻。子供との同居は考えなかった。「これから社会に出ていく子供の人生の邪魔をしたくないですから」

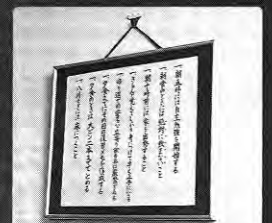


それぞれの個室は個人で掃除もする。どちらかひとりになったときのために、自分のことは自分でする癖をつけようと思ったのがきっかけ。個々のスタイルを尊重しているから、温泉に行っても別々に部屋をとって自分のペースでくつろぐとか。

「夜中に起きてきて食堂で一服しても構わない。テラスに出て夜明けを見て『今日も会社に行かないで一日中好きなことができる』と実感するのが至福の時だね」

腹話術、手品、ダンス、学生時代からやりたかった習い事に行くのを日課としつつ、この「家」に帰って若い人たちとふれあい、広広とした共有スペースでくつろぐ。

「広い家を建てたって、そのうち掃除するのめんどくさくなる。ものを抱え込んでも仕方ないしね。余分や負担は省いて、自分の好きなことだけに定年後の生活は費やしたかったからね」



居間の壁に掛けてある「七箇条」。ご自身の部屋にも張ってある。

毎日やるべきことを自分に課すことで生活にメリハリを

仕事人間だったのに急に時間が自由になったら、きっと朝から一杯やってしまう、という危機感をもった靖彦さんは、定年前にこの七箇条を決めたという。曰く、朝は5時に起きて習い事の練習に励むこと、10時には出掛けること、などなど。毎日守れたか否かを全項目チェックする徹底ぶり。自堕落な生活をしないことも定年後を楽しむコツ。

暮らしを 楽しむヒント

シビにはない料理を味わえるので楽しいですよ」と文子さん。

部屋も60㎡とふたりに住むにはちよつどいい広さ。長い年月で蓄えた大量のものはここへ入るとき思い切って処分した。今はコンパクトに暮らすのがちよつどいい。

「広い家を建てたって、そのうち掃除するのめんどくさくなる。ものを抱え込んでも仕方ないしね。余分や負担は省いて、自分の好きなことだけに定年後の生活は費やしたかったからね」